

1. シラバス

授業科目名	生活設計論	単位数	2
開講年次	1年～	学 期	前期
担当教員	志村結美		
科目分類	全学共通科目		
選択／必修	選択	授業形態	講義・演習
授業の目標	現代社会の変動の中で我々の生活は大きく変容し、様々な生活課題が顕在化している。その生活の変容の過程と諸問題を浮き彫りにし、生活形態、生活意識の多様性を理解するとともに、現代社会において必要な主体的な生活設計・ライフデザインについて認識を深める。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活設計・ライフデザイン 2. 社会変動とライフコース 3. ライフデザイン <ol style="list-style-type: none"> (1) タイムマネジメント (2) 自己分析・自己理解 4. 現代社会の生活課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家族、親子関係が抱える課題 (2) 食生活が抱える課題 (3) 結婚とパートナーシップ (4) ジェンダー的課題 (5) 福祉とシティズンシップ (6) 消費者が抱える課題 (7) その他 5. 生活リスク・マネジメントとライフスタイル <ol style="list-style-type: none"> (1) 年金構造 (2) 生活設計と保険（生活とリスク管理） 6. キャリアデザインの現代的課題 （若者の自立と雇用問題、ジェンダー的視点、ワークライフバランス等） 7. 総括・まとめ 		
テキスト	テキストの指定は行わない。		
参考文献	※参考文献については、授業中に適宜紹介します。		
評価方法・基準	定期考査 45% 平常点/出席点 30% 小テスト/レポート課題 25%		

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

- ① この「生活設計論」は、全学共通科目として、前期に開講しています。主に、1年生や2年生が受講します。将来の生活を考えることにより、自己理解や自立した個の確立の必要性を認識し、現代社会の生活課題を探究し、他者との共生や社会の一員としての自らの有り様を把握することを目指しています。

家政学という言葉は使っていませんが、生活を真正面から捉え、よりよい生活をめざして、自らや社会の課題解決に取り組む内容は、家政学に通じるものがあると考えています。また、この授業は、主体的な学びを目指して、参加型ワークショップ形式の授業展開を中心としています。ワークショップ例としては、自分を見つめる（自己他己紹介、様々な価値観ランキング法、アサーション）、現代家族を考える（フォトランゲージ、ロールプレイ）、現代生活を考える（即答フリップ方式(食生活)、説得納得ゲーム(消費生活)等があげられます。

- ② 学部全体では、家政学原論関連科目として、教職科目として、「中等家庭科授業研究Ⅰ・Ⅱ」、「中等家庭科教育法第一、第二」、「家庭科内容論」、「家庭科教育学」等々があります。また、家政教育専修コース専門科目として「家庭経営学」等があり、新課程の一部の学生を対象に「生活学概論」「生活科学論」等が開講されています。1998年までは「家政学原論」が設定されていましたが、その後、「生活学概論」となっています。

- ③ 1年次前期には、家政教育専修の学生全員を対象に「学部入門ゼミ」が行われます。家政系教員がオムニバスで担当し、家政学や家庭科教育学の定義等、基礎・基本を紹介し、4年間の学習や研究の流れが把握できるようにしています。学生は、「家政学とは?」「家庭科教育は何を目標とするのか?」について初めて真剣に考えることとなります。しかし、残念ながら、4年生で教員採用試験を受験する頃になりやっと、「家政学」「家庭科教育」について認識を深めることができるのが現状です。そこで、卒業を目前に控える4年次後期に必修で行われる「教職実践演習」において、基本に立ち戻り、「家政学とは?」「家庭科教育とは?」について話し合いを行うようにしています。

しかし今年より、学部の改組により、家政教育専修は生活社会教育コースとなり、社会科と家庭科の学生が共に一つのコースとして入学してくることになりました。「学部入門ゼミ」を担当する時間も半分以下に減ってしまいましたが、関西家政学原論研究会が刊行した「家政学のじかん」を教科書として活用し、コース全員に家政学とは何なのか、認識を深めることができるよう工夫しています。